学部・講義：幼児や保育者の姿、保育の現場を想い描きながら自らの考えを深める

幼児教育・青井倫子

１．　授業の概要

幼年教育の専修科目（２回生対象必修）であると同時に、幼稚園免許状の教職に関する選択科目（一種：必修、二種：選択必修）、保育士コースの必修科目である。

授業の内容は、(1)幼稚園教育要領改定の骨子、(2)幼児教育の方法及び領域の捉え方、(3)領域「人間関係」導入の背景と意義、(4)幼児をとりまく人間関係の特質と機能、(5)幼児の仲間意識発達のすじ道、(6)人と関わる力を育む保育のあり方である。

２．　受講学生　37 名

２回生:31 名、３回生:５名、Ｍ２生:１名

３．　授業の工夫

(1)受講生のほとんどは、幼児教育の基礎知識や、幼児と関わった経験、保育現場を見学した経験などがない学生である。そのような学生であっても、具体的な幼児の姿や保育現場をイメージしながら授業を理解できるような配慮を心がけた（ビデオ視聴、保育者と幼児のやりとりを再現、青井が地域貢献や研究上記録した事例をプリントで配布、等）。

(2)学生が自らの意見や考えを持ちながら理解を深めていけるよう、発問−応答のやりとりを多く取り入れた。

(3)青井が幼児を演じ、学生に保育者として対応させ、それに対してコメントや解説を与える方法も多く取り入れた。

４．　授業評価の方法と結果

14 回目の授業終了時にアンケートを配付し、自宅で記入の上、最終授業日に持参してもらった（学年・専修・氏名の記入は自由意思)。回収率：100％

５：たいへんそう思う（非常によい）
４：ややそう思う（よい）
３：どちらともいえない（ふつう）
２：あまりそう思わない（あまりよくない）
１：まったくそう思わない（よくない）

テーマ・目的は明確だったか	4.8
話し方は明確・聞き取りやすかったか	4.9
重要なことを強調したか	4.8
プリントに沿った授業は理解を助けたか	4.8
ビデオ視聴は授業の理解を助けたか	4.8
授業への熱意が感じられたか	4.7
内容・レベルは適切だったか	4.4
考えが培われたり得るものがあったか	4.8
教職に就くうえで有益だったか	4.8

５．　地域社会を核とした教育と研究のつながり

愛媛県下市町の幼稚園・保育所における実践研究協力者や指導助言者、特別支援教育巡回相談員を務めたりしていることから、保育実践や子どもたちの育ちにおける実際や課題、最新の取り組みなどについて多くの事例や知見を保有している。本授業は「指導法」の授業である。可能な限り、愛媛県及び近隣県における実際事例を紹介したり、研究において収集した愛媛県下市町のデータを紹介しながら説明をすることで、学生たちが地域の保育現場や地域の子どもたちの今をイメージしながら具体的に理解できるよう心がけた。

自由記述から、「保育の現場に出てみたい」「学んだことを実践現場で生かしたい」「子どもとこんな風に関わりたいと思うようになった」「子どもと関わる意欲につながった」「子どもとの関わり方を変えることができた」など教職に向かう意識の向上が伺われた。